

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)		商店街（代表者）	販売量の動き	・今のところ天候の影響もなく、青果物が順調に出荷されている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・雪が遅く、暖かな冬となったことで景気は良くなっている。北海道胆振東部地震以降、外国人観光客が戻ってきていることもプラスである。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・12月は風雪や冷え込みが穏やかであるなど、比較的天候が良いため、来客数が伸びている。特に、国内シルバー層の観光団体旅行客がこれまでと比べて目立っている。12月26日現在、来客数は前年比111.4%と好調である。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・このところ、ワイン、シャンパンなどの売上が増えてきている。特に12月は高額のシャンパンの売行きがとて良く、売上を押し上げている。このことから景気は回復基調にある。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・衣料品や身の回り品などの動きは鈍いものの、高額商材の動きが良くなっている。また、近隣に公共施設がオープンしたこともあり、来客数も増えてきている。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・来客数及び買上客数が前年と比べて若干のマイナスで推移しているが、外国人観光客がプラスで推移していることで、客単価が大きく上昇しており、全体売上もプラスとなっている。年未年始にかけてもこの傾向は続く。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・買上客数が増加傾向で推移している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・近隣の総合スーパーが来月閉店することで、当店の売上にもマイナスの影響が生じているものの、現時点においては、売上、来客数のいずれもじわじわと増加傾向にある。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・北海道胆振東部地震の影響と連休が取りやすい曜日並びのため、子供が帰省すると話す客が多くみられる。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・北海道胆振東部地震以降、来客数の減少が続いていたが、12月に入り減少幅が小さくなっており、回復傾向がみられる。クリスマス、年未年始の予約商品の動きも前年並みであった。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・既製品の売上は前年と比べて僅かに落ちているが、オーダー品の売上が前年比130%と伸びをみせている。客の購買意欲が明らかに上向ってきている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・12月前半から来客数が伸びている。4Kテレビ、レコーダー、チューナーなどの売行きが好調であり、客単価アップにつながっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・僅かではあるが、来客数が増加している。
		自動車備品販売店（店長）	競争相手の様子	・北海道胆振東部地震の1か月後から集客施策を行っていたこともあり、直近2か月の来客数が前年比110%と伸長し、タイヤ販売も前年並みとなった。ただ、要因は検証中だが、同様の集客施策を行っていた競合店では、タイヤ販売が前年比80%となっており、差が付いている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・原油価格が急落し、石油製品価格が下落傾向にあることで、販売量が回復傾向にある。
	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・北海道胆振東部地震で減少した外国人観光客が予想以上に早く回復してきている。	
	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・北海道ふっこう割の利用客が好調であった。市内の大型施設を利用したコンサートイベントもプラスに作用した。	

旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・9～10月は北海道胆振東部地震及びブラックアウトの影響から外国人観光客の減少がみられたが、11月以降は回復し、前年を上回る利用客がみられている。12～1月は観光閑散期であるが、1月以降の冬観光にも期待できる。
タクシー運転手	来客数の動き	・12月は年末の繁忙期であり、年間でタクシーの売上が最も多い月である。ただ、売上は天候にも左右されるため、今年のタクシー1台当たりの売上は前年と比べると若干のマイナスであった。一方、会社の売上は、乗務員不足でタクシーの稼働率が落ちていることで前年比マイナス8%であった。
タクシー運転手	販売量の動き	・冬季の繁忙期を迎えている中、序盤戦は暖冬の影響で客足が鈍かったこともあり、前年を割り込んでいたが、中盤以降、雪が降り始めたことで月全体では例年とおりの販売量となった。
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・品質に対する信頼感の観点から、競合他社にサービスを切り替える客の数が大幅に減少している。
美容室（経営者）	来客数の動き	・3か月前は北海道胆振東部地震が発生した月であるため、その月と比較すると景気は良くなっている。全体的な雰囲気もやや良くなっている。
商店街（代表者）	単価の動き	・北海道胆振東部地震の影響はほぼなくなっているが、クリスマスのギフトシーズンであるにもかかわらずギフト需要が減っている。客単価も10%以上の落ち込みがみられる。
商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応が以前と変わらず、変化がみられない。
商店街（代表者）	来客数の動き	・12月1日から年末大売出しを行っているが、客足が低調であり、抽選会場への来場者もまばらであった。特に土日は来街者が少なく、お歳暮商戦も例年を下回ったとみられる。また、北海道ふっこう割による観光客の増加も当地では目立った影響はなかった。
商店街（代表者）	販売量の動き	・待望の雪が降り、冬物商材が売れ始めたが、今年は雪が少なかったため、販売量の伸びがなかなかみられなかった。また、飲食店では、年末の予約が遅くなっているなど、苦戦を強いられている。特に夜遅くの飲み屋では、早めの帰宅者が増えていることで一層の苦戦を強いられている。
百貨店（担当者）	販売量の動き	・12月に入り、降雪などの悪天候の影響で来客数が伸び悩んでいる。クリスマス直前になり、反動で盛り返してきているものの、前半の落ち込み分をばん回できていない状況にある。
百貨店（営業販売担当）	販売量の動き	・来客数は前年並みをキープできているが、買上客数、買上点数が前年を下回っている。特に婦人服の低下率が高い。食品もお歳暮が低調に終わり、苦戦している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・お歳暮ギフトの件数を抑える傾向がみられることで、販売量が前年を下回っている。また、クリスマスや年末商材の動きも鈍く、節約志向が依然として変わらない。
スーパー（企画担当）	お客様の様子	・ガソリンや灯油の価格低下がみられるものの、株式市況が低迷していること、北海道胆振東部地震以降の節約ムードが払拭されていないことから、客の購買動向も一進一退の様相を呈している。
スーパー（役員）	来客数の動き	・ここ数か月、来客数の伸びが全くないまま推移している。8月までは外国人観光客や他地域からの入込客の動きが良かったが、北海道胆振東部地震以降は前年から10%程度落ち込んで推移しており、小売業における来客数も前年と比べて1～2%の落ち込みとなっている。また、商品単価が前年より数%低いことで客単価も低下している。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・来客数が戻ってきているが、売上が回復してこない。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・農家などの動きが悪い。今年の秋の農作物の収穫が今一つであったことが、客の買い方にも反映されている。

	高級レストラン (経営者)	お客様の様子	・年末を迎えて、歳末商材に動きが出ているため、当店にとっての景気の良しあしまでは判断できない。
	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・地元常連客や外国人観光客の利用が増えている。また、スタッフが料理説明や飲物のおすすめなど、客が望んでいることを察して対応していることで、回転率、客単価も上がっている。総売上は前年から50%の増加となった。
	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・ランチ、ディナーのいずれも前年をやや上回った。ランチは後半になり、格安メニューよりもコース料理がよく出たことで客単価が上昇した。また、ディナーは予約を含めて全体的に悪くない状況で推移した。北海道ふっこう割による効果で、市内のホテルには道外からの観光客が順調に入っており、北海道胆振東部地震後のような閑散とした状況が続いていないことも良かった。
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・北海道胆振東部地震以来、来客数の減少が続いている。北海道ふっこう割も道南や道央での利用に集中しており、道北、道東では効果が薄い。また、外国人観光客も十分に回復しておらず、厳しい状況が続いている。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・景気動向は可もなく不可もなく推移している。農業関係者との取引も従来どおり順調に推移している。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・客の様子をみると、景気が良くなかったためか、旅行を申し込む客が余りみられない。
	旅行代理店(従業員)	それ以外	・第4四半期の動きが鈍く、景気は変わらない。
	旅行代理店(従業員)	単価の動き	・高額商材が売れないため、景気は変わらない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・イベントや外国人観光客がほぼ戻ってきているが、来客数の推移をみると景気は変わらない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・今は年間で最も稼働状況が上がる季節だが、客の利用頻度が今一つ上向いてこない。
	美容室(経営者)	お客様の様子	・12月という特殊性を除けば、特に客の様子に変化はみられない。
	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・モデルルームへの来訪客の商談に要する時間が長くなってきている。購入をちゅうちょして判断を先送りする客が以前と比べて若干増えてきている。
	一般小売店[土産] (経営者)	単価の動き	・当施設の入込はほぼ前年並みにまで回復しているが、買物客の様子をみると、客単価が低く、勢いが感じられない。北海道ふっこう割の影響で11月の売上がやや良かったが、需要を先食いしたのか、その分の反動がみられており、12月については入込客の多さほど、売上が良くなっていない。
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・北海道胆振東部地震の影響で、温泉街での観光客の減少がいまだに続いている。
	乗用車販売店 (経営者)	競争相手の様子	・新車、中古車に限らず、全般的に受注量の落ち込みがみられる。収益が前年から減少している販売店も多い。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新型車が発表されたが、なかなか受注量が増えてこない。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・北海道の場合、冬を迎える10~11月頃から需要が段々と落ち込み、1月頭から春先需要が出てくる傾向にあるため、12月は谷間の月となる。
	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・来年度に予定されている消費税増税と賃金の停滞感が客の心理に影響を与えている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・依然として景気が回復してこない。3か月前と比較しても景気が上向くような兆しは感じられず、厳しい状況が続いている。当社の売上は毎月、約1千万円弱の落ち込みが続いており、とても厳しい年度末になりそうだ。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・繁忙期であるが、例年にないほど売上が落ち込んでいる。

		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・本格的な冬期間となり、ヒト、モノのいずれも輸送量が減少している。
	×	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株価が暴落しているため、客が将来に対して悲観的になっている。
企業動向関連		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・ここ最近、売上予測を上回る実績が続いており、既に年初計画を上回る状況となっている。
(北海道)		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・小規模の請負物件に動きが出てきた。大型の案件での取引は難しいかもしれないが、質を求める小型の案件は少なくなっている。外国人観光客の増加に伴い、ホテルなどの新築、改装が盛んになっていることもプラスである。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて売上が特に変わっていないこともなく、前年を1割ほど下回る状況が続いている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・12月の販売量は前年比マイナス2.8%であり、3か月前の9月は前年比マイナス1.7%となっていることから、景気は余り変わらない。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・市内で続いていた大型建築工事がしゅん工した。新規大型工事も始まっているが、着工間もないため、まだ土工事が主体であり、景気の波及にまでは至っていない。
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・これまで降雪の影響が少なかったこともあり、受注工事は予定どおりに進行している。年度内案件の完成工事高と利益も順調に積み上がっており、年度計画を上回るのが確実な状況に変わりはない。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・米中貿易摩擦の影響で荷主が輸入量を抑えざるを得ないケースや、極度の品薄から鋼材などの荷動きを先延ばしにするケースが散見される。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・農作物については品種によるばらつきがあるものの、おおむね順調である。製品関連もこれまでは順調に推移している。年末を迎えて一服感はあるものの、年末需要もみられており、北海道内や本州との輸送は堅調に推移している。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・北海道胆振東部地震による影響が緩和され、これまで道内景気をけん引してきた外国人観光客による消費も回復しつつあることから、道内景気は3か月前と横ばいでの推移となっている。
		司法書士	取引先の様子	・観光業など、一部の業種においては景気が上向いているようだが、不動産関連業界においては客観的にみても変化はみられない。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き当社の売上は前年から5%程度ダウンの状況で推移している。この状況はしばらく続くと思われる。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・客先において、在庫量、受注量に関する楽観的な話が減少している。在庫量の増加や受注量の減少に触れる声が半数以上を占めるようになってきている。
		司法書士	取引先の様子	・前年に引き続き自然災害の影響が大きく、景気回復の兆しが見えてこない。土地を購入し、建物を建てる、又はマンションを購入するといったことを決心をするためには、実感での景気回復が必要であり、なかなか成約には至らない状況にある。
	×	-	-	-
雇用関連				
(北海道)		求人情報誌制作会社（編集者）	周辺企業の様子	・新規開店や新規事業に取り組みようとする積極的な姿勢の企業が増えてきている。周辺では、これまで落ちていた介護施設の新規オープンの動きもみられる。ただし、従業員数や資金的に余裕がある企業に限られた動きである。従来どおりの企業運営に終始している企業も多数あり、元気な企業との二極化が進んでいる。

	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	それ以外	・ 基幹産業の農業において、今年の産出額が過去 2 番目の記録になったことに加えて、北海道胆振東部地震に伴う北海道ふっこう割を活用した観光客の入込増加など、農業面、観光面で良好な動きが出てきている。
	学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	求人数の動き	・ 2020年卒の求人数は順調に推移しており、市内で行われている就活セミナーへの学生の参加状況も良い。また、経団連の就活に関する指針がなくなることで、今後の就活に向けて上向き傾向が続くことになる。
	人材派遣会社 ( 社員 )	求人数の動き	・ 求人数は年末にかけても引き続き増加傾向にある。欠員対応の求人もみられるが、業績拡大に向けた増員求人も多い。また、事務系の求人も増えている。事務系の求人については、一般事務職の求人倍率が0.2%台と低いままであるのに対して、幹部系の求人が増えていることから、好調な業績に伴う業務拡大に対応するための増員が中心であるとうかがえる。
	求人情報誌製作会社 ( 編集者 )	求職者数の動き	・ 35歳以下の若年層の求職者が減少傾向にある一方で、60歳以上のシニア層の応募が増加傾向にある。総体的な数字に変化はみられない。
	求人情報誌製作会社 ( 編集者 )	周辺企業の様子	・ 時期的な要因があるのかもしれないが、北海道胆振東部地震後に激減した外国人観光客が地震前の水準に戻っている。ただし、外国人観光客頼みの感は拭えず、そのほかの地元一般企業についてのプラス材料は聞こえてこない。
	職業安定所 ( 職員 )	求人数の動き	・ 月間有効求人数が 3 か月連続で前年を下回ったが、月間有効求職者数が 7 年 1 か月連続で前年を下回ったことから、有効求人倍率は 1.15 倍と前年を 8 年 9 か月連続で上回った。
	職業安定所 ( 職員 )	求人数の動き	・ 11月の有効求人倍率は 1.16 倍であり、前年を 0.05 ポイント上回り、引き続き高い水準で推移している。
	職業安定所 ( 職員 )	求人数の動き	・ 新規求人数が 2 か月ぶりに減少したが、建設業、医療・福祉などにおける技術者、有資格者の慢性的な人手不足により、更新求人の割合が高い状態で推移している。全職種に占める専門的・技術的職業の割合は、産業ごとの増減はあっても一定の割合で推移しており、大きな増減はみられない。
	求人情報誌製作会社 ( 編集者 )	求人数の動き	・ 物流や小売の求人が若干良かったものの、求人数は減少傾向が続いている。
	x	-	-